

## 【静岡サレジオ幼稚園】

●2021.11.22 ふりかえり（エコエデュスタッフ／遠藤知里先生）



### ◆スタッフ④：

今日の狙いは、「五感を使って草花や生き物と触れ合ったり、遊んだり、その中で面白い発見をしたりする楽しさに気づく」というところでした。また、「これからの園庭や公園での遊びにも繋がる」といいなっていう、そんな狙いでしたが、皆さんいかがでしたでしょうか？その狙いに迫る手立てと、子どもたちの様子と、あとヒヤリハット事故などがありましたら教えてください。

### ◆スタッフ⑤：

男の子チーム 10 人です。最初の導入をみんなで「あー、ツルツル」ってことで、触るから始めました。私は下見のときから考えて、身体を動かしたりするために、つるをみんなで引っ張ったりということさせたいなと思って、探検のコースを行っただんですけど、全員でつるを引っ張って、「ヨイショ、ヨイショ」って言って引っ張ったり、つるがどこまで行ってるんだらうって言って、みんなで探したり。あとは、



偶然のものが多いんですけど、キノコを見つけたり、切り株に穴が開いてるのを、みんなが一人ずつ「ここにも開いてる！」「ここにも開いてる！」って言って、なんで穴が開いてるのかな？っていう予想をしたり、蜘蛛の背中を触ってみたり、そういった体験で、「触る」ということを中心にやってみました。反応がすごく良くて、素直で、本当にすごく良かった

んですよ。

私は、虫をいまの時期少ないなりに色々見せようと思ったので、雪虫を朝、捕まえ

ておいて。だけど雪虫を自分達で見つけない限りは、私から見せるって、ちょっと反則だなと思ったので、そうしたら、ちょうど良く飛んでいて、男の子の手に止まってくれて、それをみんなでもう一回、観察ケースでよく見るというのをやったら、「なんかフワフワしてるー」って言って。触っちゃった子は、手にくっついちゃって、ああ、困った、困ったって感じで。触るってというのは、最後まで手が出ない男の子もいたんですけど、割とみんな、いろんなものを触って体験出来たかなって思いました。

◆スタッフ③：

はい。女の子チームで非常に個性のある子ども達だったのですが、子ども達がやっぱり自然体験をしていないってようなこともあったので、ちょっとの段差を上がるのが「怖い」とかって言って。結構雨が降ってきて2人程途中で寒がったので先生に見ていただいたりして、ようやくプログラムを始められた感じです。すごい元気でもう私よりも早くどんどん行っちゃう子と、途中で「もう帰りたい」という子がいて、收拾が付かなかったっていうことがあったんですけどね。ただ最後のところで、これまであまり見つけてなかった子がいて、それで私が「じゃあ、何かここで見つけよう」と言ったら、他の子たちが「私のもあげるよ」「私のもあげるよ」と。そんな姿を見られました。

私は最初に何から入ろうかなと思って、葉っぱの虫が食ってる穴が開いているのを何に見えるかな、なんか変な人みたいね、とか、幽霊みたいね、とか、なんかそんなふうなかたちで、いったんです。それは結構たくさん見つけられたっていう。あ、これヒトツメコゾウだとか、ええよく知ってんなとか、チョンマゲだ、とか。そうしたら雨が降ってきて、2人の子が雨雨降れ降れの歌を歌い始めて。ともかく今回、やっぱりこういう起伏のあるところで、自然のなかでいろんな体験をすることが、すごいこれから重要になるかなあって感じしました。

◆スタッフ④：ありがとうございます。では、次お願いします。

◆スタッフ⑧：

はい、男子チームだったんですけど、男の子たちすごく元気な子たちが多くて、こちらの話を聞くよりはやく行っちゃう、はやく遊びたいみたいな感じの子が多かったんで、ちょっと集中させるのに手こずったんですけど。最初から遊びのほうにいったれと思って、すごい長い棒だねって、ポキンと折って、あぁいい音したねえっていうところから、こんこんと音も鳴るね、というようないろいろな遊びが子どものほうから膨らんでいって、これってお箸にもなるよねって言ったら、こう二本棒を持ってこうやって持ち上げてやりはじめたら、途端にみんながやりはじめて。なんかそういう子どもからの発信の遊びを、引き出す感じでいこうと思って、ドングリが見つかったり、蟬の抜け殻を見つけたり、子どもたちがどんどん見つけて呼びに来てくれるようになり、すこし飽きたらつぎ行きたいって言うから、じゃあ行こう、みたいな感じで、



子どもの意見を聞いて動く感じにしていきました。なので、注意事項とか、五感の説明は、ほぼ伝えられない感じだった。とりあえず危険なことだけ、これから山の中入るから、みたいな感じでお話ししてやっと聞いてもらえたので、小さい人に伝えるのは難しいなと思いながらだったんですけど。

五感って難しいなとほんと思いました。目をつかって、とか鼻つかってとか、1個ずつやっていくだけでもいいのかなと思って。シソみたいな匂いがするやつは、ほんといい匂いがするから、持って帰るって言う子がいたり。クサギの実がちょっと残っていたので、はいてあげたら、欲しい欲しいって言って自分でやって。だけどこれ硬いねえみたいな発見があったり、って感じで、すごく食いついてくれたので、山にあがったときも、登りたい子は登りたいって、じゃあ行こう行こうって言って、いちばん横の階段まで上がって、みんなが見えるのが楽しくて、ヤッホーってちょっと一体感が生まれて、ツルのところで、あれ、引っ張れるよ、引っ張ってって言って、どっこいしょ、どっこいしょって、てなんかみんな食らいついてくれて。芋の実のところが先生の頭にわさわさってついて、ぎゃはははって笑ったり、そういうのが楽しかったって、今日帰ってくれたのが良かったなあと思います。

最初なんか木のところの柔らかいの触ったりするのが怖くて、だって汚れるし、とか言ってたひとが、もうがさがさと森のトンネルに入って、あ、やればできるじゃんって感じで、すこし抵抗があってもちょっとのうちにやれるようになるんですね、みたいな話を先生としました。

はい、女の子チームです。まずね、バスを降りたところから、もう最初から最後まで泣いてる子がいたので、ちょっとその子にとって、今日一日はどうだったかなと思ったんですよ。その子に、最後の振り返りの時に、少しだけ入っている探検バッグの中身の、「お気に入りどれ？」って聞いたら、「全部」って。なぜかその部分だけはもう泣かずに、振り返りに加わってくれたのでほっとしましたが、そんな子が一人いました。



最初バスを降りるのに時間がかかってしまったのですが、降りたところに、クリのペタンコのイガがいっぱいあって、子ども達はそのクリのペタンコのやつを自ら見つけてくれて、チクチクそんなにしない、痛くないねっていうことも触って発見出来たので、もうそこでちょっと導入が出来たかなと思いました。



今日こういう森に来て、いつもは気づかないものに気づいて欲しいなって思って、五感のこのうちわを使いました。まあ最初自分で触ってみるということが出来たので、見るだけじゃなくて触ってみて、チクチクするのか、ゴワゴワするのか、そういうのを自分で感じてみてねって言って。葉っぱなんかを揉み揉みするといい匂いがするから、そういう時は少し揉んでみて匂うねということで、楽しく出来ました。

あのトンネルのところが、結構子ども達、楽しくて、森のトンネルを通過して出たところに一本橋があるんですね。そこで横歩きして工夫する人もいれば、「手を持って」って言う人もいれば、その子なりに工夫して一本橋を渡るのに、結構みんなぐるぐるぐるぐる何回も繰り返しの遊びをして。せっかくなので子ども達が全員関わることで発見があるよーっていうのも教えてあげたかったので、ちょっとヒントを与えて、みんなでリュウノヒゲの青い実を探して持って帰りました。

今日、食べることはなしで行ったんですけど、そのままお散歩すると、今度は子ども達の目で赤い冬イチゴを見つけることができ、そのうち虫を見つけた子もいたりして。そうやっていくと、段々こう目が慣れて来るという感じが分かって遊んでいた様子が見られました。



あとは冬の森ってつるがいっぱいあるので、ちょっとつるを切ってあげたら、これが電車ごっこの遊びになり、いろんな遊びに変身していったんですけど、窪地を降りたり登ったりって遊びを子ども達が発見して、つるで引き上げたりなんていう遊びが、どんどん子ども達から広がっていく感じがすごく良かったなと思いました。

あとはオオバコで私が「こうやってお相撲出来るよ」って言ったら、それがもうなかなか終わらない遊びになり。まあ、そうやって遊び込むのも今回良かったかなと思っていて、ここに来て遊びをすることで、森と自然と少し距離が縮まってくれるといいな—と思って、子ども達の遊びを形にしていったり、繋げていったりした感じです。

ヒヤリハットは特別無かったです。軍手をしなかったけれども、イガでチクチク痛いって言う子もそんなにいなかったです。あ、やっぱり年少さんなので、赤い漆の葉っぱのきれいなものを見つけて、どうしても持って帰りたくなってなっちゃうんですけど、「それ、ちょっとかぶれちゃうかもしれないよ」がなかなか通じなくて、そういう時はどうしたらいいのかなって思いながら、まあ気が済むように、入れて持ち帰れば気が済むなら、そうしてあげたらいいのかな？とちょっと迷いました。

最後、ちょっと暗い森にも入ったら「怖い」って言ったんで、最初に挨拶をして入ると、子ども達、気持ちが落ち着くようで、みんなで「おじゃましまーす」って言うと、入って行けるっていう感じがありました。

#### ◆スタッフ②

男の子チームです。最初に葉っぱをいろいろ拾ってあったのを見せて、「こんな色の葉っぱがあるよ」とか、「穴が開いてるのがあるよ」とかっていうふうにしたら、すごい興味のある子はもうどんどん来るんだけど、「いらなーい」とかっていう子も最初はいて。まあ最後はどの子もみんな袋には入っていましたけど。

ある男の子が、「なんじゃこりゃ!？」って言って。「なんじゃこりゃ!？」でみんな

な集まるようになって。「なんじゃこりゃ!?!」「こりゃ、なんじゃこりゃー!?!」と  
かって言いながら、いろいろなものを見つけていきました。プリーツのものとか、あと  
お花とか、恐竜の形の葉っぱとか、いろいろ見つけたんですけど。もう自由に割合走  
って行ってしまう子がいて、集中出来るように「あ、こんなのがあったよー」ってい  
うのがうまく整理出来なくて、ちょっとそれは私がまずかったかなって反省してま  
すけれども。

それでキノコをすごいよく知ってる子がいて、先生も「この子、キノコと木もよく  
知ってるんですよ」って言って、そこら辺の木のところにあるサルノコシカケとか、  
なんかぬめつとしたキノコとかを触ったり、みんなで見たりとかって、もう最後の方  
はキノコ探検隊って言って、「キノコないか、キノコないか」ってずっと発見して歩  
いていました。最初、「触るの嫌だー」とか、栗のイガも「触るの嫌だー」って言っ  
ていた子も、後からいっぱい拾っていたので、それは段々慣れて来るのかなとやっぱ  
り同じように思いました。

#### ◆スタッフ④

ありがとうございました。私のグループは園の先生がいなくて学生さんがついて  
くれる予定だったけど来れなかったの、その時点でちょっと誰か先生について下  
さいっていうふうをお願いをすれば良かったなってというのが、今、最大の反省かなと  
思います。やっぱり予想通り、3歳児10人はスタッフ一人ではどうにもならないと  
いうことが良く分かりました。

女の子チームで、最初はすごい聞き分けが良くて、たぶん先生もおとなしい子達だ  
から大丈夫だろうって思ったんだと思うんだよ。だけど、それが逆に「ママに会いた  
い」とか、担任の先生じゃないと寂しくなっちゃったりっていうところに繋がったの  
かなというふうに思いました。最初もうちょっと一緒に遊んで慣れていくっていう  
ところに力を入れてやると良かったなと思ってます。



私が大きい葉っぱを見せたら、「なんか傘みたい」って言って、次々にいろんな子が、「私も傘」とか言って、その傘も、私が見せたものだけじゃなくて、「あ、これもいいんじゃないか」って、シダの葉っぱだったり、ヤツデの葉っぱだったりっていうのを子どもから見つけてそれを傘にってなったのが良かったなと思います。それも雨だからこそ出来たなって。

でも割と動かない子が多かったですね。「はっぱ欲しい」って自分で取る子は2人ぐらい。あとはみんな見てるだけ。要らないのかな？と思って次に行こうとするとやっぱり欲しいみたいで、「じゃあ、一緒に取ろう」って言って、結局一人ひとり全員、手を添えて、自分で取らせたっていうところも良かったなって思いました。

だから、今日の目的としては、こういう発見の楽しさっていうところは、それなりにできた子達は楽しんでたと思うけど、だけど、ここに初めて来て、その子達ぐらいに楽しめなかった子もいた。やっぱり場に慣れるってことと、私に慣れるということにすごく時間がかかってしまって、まずそこをクリアしてから、プログラムの狙いに行くんだなっていうのがすごくよく分かりました。もうちょっと時間が必要だったかな。あと手立ても。

あと最後、袋の中の赤い実をなくしちゃった子がいて、それを「じゃあ拾いに行こう。行きたい人？」って言ったら、8人のうち4人、「はい、行きたい」って言ってくれたもんで、ちょっと大変かなって思ったけど、もうここが大事だと思って、4人連れてそこの階段もう一回上がって帰って来たので、ちょっと時間がすいません、遅くなっちゃったんですけど。そしたら「あ、これキラキラしてる」とか、「あ、これ」とかって拾い始めて、ちょっとなんか救われた感じでした。

### ◆スタッフ③

やっぱり寒さもあつたし、こういう起伏があるところに行った事ない人も多くて、一人ひとりによって違うから難しいね。

最後になってね、ちょっとほこらのようなところ、そこに「蜘蛛がいた」って誰かが言ったの。そうしたらみんな集中して、蟻とかも小さいのがちょろちょろといてさ、



やっとそこでまとまって来て、最後は木の枝をゆすってあげたら、木の葉っぱが雨と一緒に落ちて来たんですよ。それが子ども達はなんか興味を持って。あ、こんなところに葉っぱがパラパラ落ちて来たって。一人ひとり個性がすごいあって、どういうふうな形でまとめていったらいいのかっていうのは困りましたね。

◆スタッフ⑥

年長さん 10 人だったらすごいやりやすかったんだと思うんだけど、年少さんで 10 人と全然違うなと思って。

◆スタッフ③

これ天気良かったら、また違った。もっと開放的な形で、違った意味での行動の姿が見られるんだろうなって感じがするんだけど。

◆スタッフ⑥

なんかでも、「宝物を誰に見せたい？」って言ったら、「担任の先生に見せたい」って言って、すごくクラスの先生とコミュニケーションが取れてるんだなっていうのは思いました。よく山歩いているけど、「お母さんに持って行く」っていうのは聞くんだけど、お父さんはなかなか出てこないですね。お母さんに持って行くっていうのは心がやっぱりそっちに向くっていうのがあるのか分かりませんが、好きなんだなと思って。

◆スタッフ③

バスもあるしまた天気のいい日にね。

◆スタッフ⑧

回数重ねた方が絶対いいですよ。

◆スタッフ③

例えばかやっこ（エコエデュの 0～3 才児対象プログラム。毎週 2 回開催。）の子達が来た時は、全然違うんだよね。

◆スタッフ⑧（かやっこ担当）

ああ、そうですね。本当。かやっこの人達、遊べる人なんですね。

◆スタッフ③

その体験の差っていうのはすごい出るのかなって、今日感じたんだよね。



◆スタッフ⑧

最初は遊べない人って、結構かやっこでもいるんですよ。周りが出来るもんだから、離れるんです、やっぱり結構、出来ない人と出来る人が。なんかうまく園の中での遊びで入れてくれるとちょっと変わって来るだろうから、もう一回来てもらったら、違うのかなって思いますけどね。

◆スタッフ③

あとは友達同士の関わりもね。さっきも話したように、ひろったものがなくなっただけの子がいたら、「あげるよ」「あげるよ」って。そういう体験も大きいからね。

◆スタッフ⑧

そうそう。さっき、あそこの切り株に登ってジャンプするのを、「あ、ここ登れない」って、「だってギザギザしてるから痛いじゃない」って言った子がいたんだけど。1人の子が「やってみる」って言ってシュルシュルって登った途端に、みんなやり始めて。なんかね、そうやって引っ張ってくれる子がいたら、影響受けるんだろうね。

◆スタッフ③

そう、可能性がすごいあるね。

◆スタッフ④

そうだね。そういう子達がどう変わるのかがすごい楽しみ。  
遠藤先生、いかがですか？

◆遠藤先生

はい。3歳児らしい感じで、楽しいですよ。動くところから入るんだっていうのをすごく感じて。あれでしたよね、傘の、あれウラジロですかね、あれをこう



鳳凰の羽根みたいになっているやつで、鳥みたいになってた人が何人もいて、やっぱり全身でキャッチして、そうなっちゃうっていうような姿を見させてもらって、年少、2歳、3歳って、こういう感じいいなって思いました。お天気が良かったら、原っぱを上まで走って行っていいみたいな感じから始めると、より良いのかもしれませんよね。

なんせ雨ですね。あとやっぱりね、学生が6人来なかったのが本当に申し訳なかった

です。3人に1人ぐらいのスタッフが必要だなということを改めて思いました。

◆スタッフ④

ありがとうございました。なんか、新鮮だったね。いい勉強になりました。

◆スタッフ⑥

うん。本当。

◆スタッフ③

そう。課題が出来ましたね。

◆スタッフ⑤

今までになかったですよ。

◆スタッフ⑧

3歳児のこんな団体さんなかったですね。

◆遠藤先生

たった1時間だったのに、あのピーピー泣いていた人達がニコニコでね。